

特集：新しいエイズ対策の展望

第二部：地域における先駆的エイズ対策の取り組み

神奈川県立高等学校における高校生エイズフォーラムの取り組み

阿部真理子

神奈川県立大和西高等学校

Approach of High School Students' AIDS Forum in Kanagawa Prefectural High School

Mariko ABE

Kanagawa Prefectural Yamato-Nishi High School

抄録

高校生エイズフォーラムは平成6年4月に第1回を開催以来、今年度で14回目を迎え、高校生のエイズ予防啓発活動として定着するなど年々その成果をあげている。本フォーラムは神奈川県立高等学校性・エイズ教育実践研究会の高校生に対するエイズ予防啓発事業ではあるが、毎年公募により集まった高校生運営委員の「自らの問題としてのエイズ」の視点による、自主的な予防啓発活動である。現在までの13年間で400名以上の生徒が高校生エイズフォーラムの開催に携わり、エイズ予防啓発の様々な取り組みを行ってきた。さらに平成15年度の第10回高校生エイズフォーラム生徒運営委員会から、地域（一般市民等）を対象にエイズ問題への関心を高め、感染拡大をストップさせようと街頭キャンペーンを実施している。キャンペーンでは地域団体や保健所等にも働きかけ共に取り組むことにより、エイズ問題への理解及びエイズ予防啓発活動の拡大を図っている。

キーワード： 高校生，自主活動，エイズ予防啓発活動

Abstract

High school AIDS Forum was established in 1994. The goal of this Forum is to prevent the spread of AIDS and promote better understandings of AIDS among high school students. We have been making significant achievements in achieving the goal. Over 400 high school students have participated in the Forum since 1994, and they have tackled many AIDS problems. In 2003, we have launched a large-scale street campaign to inform the people of AIDS problems and how to prevent the disease, in collaboration with local medical centers or some community groups.

Keywords: high school student, volunteer, project to prevent AIDS

1, はじめに

HIV 感染拡大、性行動の早期化・多様化など若者の性行動の問題に対し、予防教育の重要性が指摘されているが、学校現場においてはいまだに試行錯誤の状況が続いている中、高校生エイズフォーラムは平成6年に第1回を開催して以来、着実に活動内容・規模・範囲を広げてきた。運営委員として参加した高校生はエイズに関する研修

やエイズフォーラム、街頭キャンペーンの企画から準備と、学校では味わえない様々な体験を通して多くの事を学び、エイズ予防啓発の担い手に育っている。その取り組みを報告する。

2, 高校生エイズフォーラムのあゆみ

(1) 高校生エイズフォーラムとは

平成5年度に神奈川県教育委員会のエイズ教育普及啓

〒242-0006 神奈川県大和市南林間9-5-1

9-5-1 Minamirinkan, Yamato-shi, Kanagawa-ken, 242-0006, Japan.

表1 高校生エイズフォーラムのあゆみ

回	大会サブテーマ	研究発表等の部	討議の部
1	心の扉を開けるのはあなたです	創作ダンス・発表「保健委員会活動」・展示文化祭の取り組み・漫画	ディベート「親友からの告白」
2	ふみだそう！そして共に生きよう	合唱・保健委員会活動・AIDS研究会 展示文化祭の取り組み	ディベート「恋人からの告白」
3	共につくろう！私たちの明日を	合唱・演劇「保健委員会活動」展示 ポスター製作ビデオ	ディベート「あなたは友人に HIV 感染を公表しますか」
4	未来に夢を心に愛を	合唱・放送劇 発表「保健学習」クイズ 展示ポスター・キルト	ディベート「あなたは高校生の男女交際にSEXをどう思いますか？」
5	明るい未来のために	合唱・発表「保健委員会活動」クイズ 展示・ポスター	ディベート「ピルが解禁されると HIV 感染が拡大すると思いますか」
6	明るくしよう！自分たちにもある未来のために	合唱 発表「エイズ学習会」クイズ ポスター・創作ビデオ	ディベート「HIV 抗体検査をみんなが受ける必要がありますか」
7	伝えていこう21世紀へ たったひとつの命のために	演奏アンサンブル 発表生徒運営委員会 展示 ポスター・キルト	シンポジウム「エイズ観・・・あなたは？」
8	見つめてみようあなたの知識 その行動	発表 生徒運営委員会 展示 キルト・壁 新聞・ポスター	シンポジウム「知識を行動に結びつけるために」
9	手をつなぎ見つけよう世界を育てよう愛を	発表 生徒運営委員会 展示 写真展・ポ スター 取材班	シンポジウム「世界・日本・今の私たちはどうすべきか」
10	みんなの幸せのために～ one for all, all for one ～	発表 生徒運営委員会 展示 写真展・ポ スター・キルト・街頭キャンペーン	シンポジウム「未来を創る若者の性」
11	意識で変わる明るい未来大きな希望	発表「考えよう私たちの性・エイズ」「高校 生から見たエイズ医療」展示 ポスター・ キルト・街頭キャンペーン	シンポジウム「未来を創る若者の性パートII」
12	一人から二人へ、世界の未来を切り開こう	発表「正しい知識を持つことが予防の第一 歩」展示「エイズと薬物」街頭キャン ペーン・ポスター	シンポジウム「アジアと日本と私たち 共に学ぼう性・エイズ」
13	あなたが主役！！ 生と性を大切に	発表「もっと知ろう・考えようエイズのこと」 紙芝居・クイズ劇展示 ポスター・研究・ 街頭キャンペーン	シンポジウム「自分のため 大切な人のため・・・今すべきこと」

発研究委託機関として設立された神奈川県立高等学校性・エイズ教育実践研究会（実践研）が、平成6年度に高校生の性・エイズ教育においては仲間が果たす役割が重要であるという観点から、高校生自らが主体となって同年代の若者への正確な情報と予防行動への働きかけを行う事業として打ち立てた高校生によるエイズ予防啓発の取り組みである。

(2) 高校生エイズフォーラム生徒運営委員会

高校生エイズフォーラムは表2に示す目的及び活動にあるように、あくまで高校生により組織された高校生エイズフォーラム生徒運営委員会（生徒運営委員会）によるエイズ予防啓発の自主活動であり、実践研会委員が側面から支援している。

表2 高校生エイズフォーラム生徒運営委員会

<p>(目的) エイズ問題を自らの問題としての自覚と現状把握を促し、現在及び将来に向けての予防行動につなげるよう、若年者はじめ広く地域社会の人々に対して、HIV/AIDS や性感染症等に関する正しい知識情報の提供及び予防を呼びかける等の啓発活動を実施する。</p> <p>(活動) 神奈川県立高等学校を中心に公募した生徒運営委員により高校生エイズフォーラム生徒運営委員会を組織し、企画運営を行う。</p>
--

具体的には第1回生徒運営委員会時に委員長等役職を決め、エイズ問題の何を焦点にとりあげるかを協議し、テーマ、方法・内容等について決定する。その後HIV/AIDS に関しての研鑽を積みながら、各役割に分かれテーマにそって調査、取材等により資料を収集、効果的な発表

方法を考え街頭キャンペーン・高校生エイズフォーラムを展開、最終的には実践を報告書にまとめて学校をはじめ各関係機関に送付している。

(3) 高校生エイズフォーラムのあゆみ

本フォーラムは平成6年度に第1回を開催し、以来表1にあるように平成18年度までに13回実施している。第1回目の生徒運営委員会で決定した大会メインテーマ「エイズ理解から行動へ」のもと、毎年その年度の生徒運営委員によりフォーラムの方針を定め、それにそってサブテーマ・アピールの内容、方法等を決めている。

フォーラムの内容も社会のエイズ問題への対応の変化に応じて変わってきた。第1回目の平成6年頃は、高校生の性の問題を正面から扱うことが難しい状況もあり、エイズ「差別」問題に主力が置かれていた。しかし第4回目の平成9年頃から、性行動の若年化・多様化、性感染症・人工妊娠中絶の増加等の状況に対応しようと、HIV 感染は性感染症であり、誰でもが関係すること、人ごとから自分ごとへという認識が徐々に高まり、内容も身近な問題として考えようというアピールに変わっていった。

3. 取り組みの実際（平成18年度 第13回高校生エイズフォーラムの実践より）

(1) 生徒運営委員の募集

平成18年4月上旬に全県立高等学校に「県立高等学校高校生エイズフォーラム運営委員募集要項」・募集案内・ポスター・を送付し、「エイズ問題に関心があり予防啓発

表3 第13回高校生エイズフォーラム生徒運営委員会活動状況

月日	場所	会議名	内容
2006/5/26	神奈川県学校給食会館	生徒運営委員会	生徒運営委員会の運営について
2006/6/14	神奈川県学校給食会館	生徒運営委員会	テーマについて・研修・班別内容検討
2006/7/10	大和西高等学校	調査研究班会議	発表内容の検討・決定
2006/7/15	県立上矢部高等学校	調査研究班会議	発表資料収集及び資料研究
2006/7/20	大和市生涯学習センター	生徒運営委員会	班別活動の進捗状況確認及び班別活動
2006/7/31	県民活動サポートセンター	シンポジウム班会議	シンポジウムのテーマ及び内容検討
2006/8/2	横浜市開港記念会館	性・エイズセミナー	研修
2006/8/3・4	神奈川県民センター	AIDS文化フォーラム in 横浜	研修
2006/8/17	大和市生涯学習センター	生徒運営委員会	班活動の進捗状況確認及び班別活動
2006/8/19	県民活動サポートセンター	シンポジウム班会議	シンポジウムのテーマ及び内容検討
2006/8/28	(財)エイズ予防財団 厚労省健康局疾病対策課	調査研究班 取材	HIV/AIDS 予防及び治療の現状 HIV/AIDS 予防の国としての対応
2006/9/1	大和市生涯学習センター	生徒運営委員会	進捗状況の確認班別活動
2006/9/9	県立上矢部高等学校	調査研究班会議	資料収集及び資料研究
2007/9/14	県立相模大野高校	調査研究班会議	資料収集及び資料研究まとめ
2006/9/18	県立大和西高等学校	シンポジウム班 運営委員会	シンポジウム内容の検討進捗状況確認
2006/9/26	神奈川県衛生研究所	調査研究班 取材	HIV 感染予防の現状と今後について
2006/10/1	県民活動サポートセンター	シンポジウム班会議	原稿作成街頭キャンペーンについて
2006/10/4	大和市生涯学習センター	調査研究班 運営委員会	会議進捗状況の確認取材記録の整理・考察
2007/10/9	県立相模大野高校	調査研究班会議	資料まとめ・発表シナリオ検討
2007/10/15	県立上矢部高等学校	調査研究班会議	資料原稿の完成にむけての作業
2006/10/25	大和市生涯学習センター	生徒運営委員会	エイズフォーラムの運営について
2006/11/1	県立上矢部高等学校	調査研究班会議	エイズフォーラム発表準備
2006/11/4	県民活動サポートセンター	シンポジウム班	原稿作成フォーラム発表準備
2006/11/5	県立上矢部高等学校	調査研究班会議	フォーラム発表準備
2006/11/11	県立上矢部高等学校	調査研究班会議	紙芝居・劇練習 パワーポイント完成
2006/11/12	県立上矢部高等学校	調査研究班会議	紙芝居・劇練習 パワーポイント完成
2006/11/11・12	やまと産業フェア (大和駅前)	予防啓発街頭キャンペーン	HIV 感染予防啓発活動
2006/11/17	大和市生涯学習センター	第13回高校生エイズフォーラム	フォーラムの開催
2006/11/18	神奈川工科大学	予防啓発街頭キャンペーン	HIV 感染予防啓発活動
2007/3/13	神奈川県学校給食会館	生徒運営委員会	反省会

活動をやってみたいと思っている」生徒運営委員約30名の募集を行ったところ、8校28名の応募があった。

(2) 生徒運営委員会の活動状況

平成18年5月25日に第1回の生徒運営委員会を開催し、第13回高校生エイズフォーラムのサブテーマを「あなたが主役!! 生と性を大切に」に決定し、このテーマのもとに具体的に何をとり上げるのかを検討した。その結果エイズをより身近な問題として考えるために“母子感染”を切り口に、調査研究班・シンポジウム班それぞれがいかにアピールするか、その内容を考えた。表3は企画から実施までの生徒運営委員会の活動状況であるが、これ以外に実際には各班ともE-mailやFAX、少人数での打ち合わせ等を行っている。学校が異なる中での活動であること、さらに運営委員は自校においても委員会や部活動に取り組んでいる生徒であるため、活動時間の捻出に苦慮しながらも、各班のリーダーを中心に携帯メールなどで連絡をとりあいながら積極的に取り組んでいた。

(3) エイズ予防啓発街頭キャンペーン

エイズ予防啓発街頭キャンペーンは平成18年度で4回目となる。平成17年度はやまと産業フェア及び東海大学保健センターの大学祭での事業に参加したが、平成18年度は厚木保健所との連携となった。

11月11日(土) 11月12日(日) やまと産業フェア2006

11月18日(土) 神奈川工科大学大学祭(共催 厚木保健福祉事務所)

会場の各所にてエイズ理解・予防及び検査の勧めをわかりやすく呼びかけ、生徒運営委員会作成のパンフレット、チラシ等を配布し、エイズ問題への関心の喚起と第13回高校生エイズフォーラムの宣伝を行った。また、イベントステージにおいて予防啓発のプレゼンテーションを行った





り、ペンシルバルーンで動物やレッドリボン等作りを実演するなど、関心を喚起しながら資料の配布と同時にエイズ予防をアピールした。

《キャンペーンを体験して》 やまと産業フェア（11月11・12日）11日は朝から雨。本降りの中で始まった大和でのキャンペーン。初体験で緊張していたが、行きかう人々とも話しができていくうちにそんな気持ちは無くなっていった。怖がりながら作った風船が小さい子達に喜ばれて嬉しくなった。駅前では高校生に近寄って声をかけると、耳を傾けてくれた。雨の中、受け取り拒否もほとんど無く、すべて配布できた事に充実感を感じた。18日神奈川工科大学はさすが大学の文化祭といったところか、各サークル等の出しものも豪華で、またお客さんを誘う学生の話術に感心、負けじと声を上げて宣伝を始めた。制服を着ているからか、説明や呼びかけを注意深く聞いてくれた。来た甲斐があったなあと思った。（生徒



運営委員2年A)

(4) 第13回高校生エイズフォーラム
 <平成18年11月17日(金)>

神奈川県下高等学校生徒教員・PTA・一般を対象に参加を呼びかけたところ、139校の生徒教員400名、保護者大学生一般あわせて18名 計418名の参加を得た。当日の内容は次のプログラム（抜粋）に示すとおりである。

プログラム

大会メインテーマ「エイズ 理解から行動へ」

第13回テーマ

— あなたが主役!! 生と性を大切に —

13:00	13:30	13:40	14:20	14:30	16:20
受付	開会式	調査研究発表 もっと知ろう考えよう エイズのこと	休憩	シンポジウム 自分のため 大切な 人のため……今すべき こと	閉会式

調査研究班『もっと知ろう 考えよう エイズのこと』
 ～紙芝居・クイズで学ぶ HIV/AIDS～（資料も冊子にまとめたよ!）

今日、日本は先進国といわれている国の中で唯一 HIV 感染者・エイズ患者が増えています。その主な感染経路は

Q1 HIV の感染経路は性行為だけである。
 Q2 HIV = AIDS である。
 Q3 HIV/AIDS は完治する病気である。
 Q4 妊婦が HIV 感染者、AIDS 患者であった場合、絶対に子どもも感染してしまう。
 Q5 HIV 抗体検査の中に一日でできるものがある。

性的接触によるものですが、今回紙芝居では母子感染について取り上げ、HIV/AIDS への偏見・HIV 陽性者への接し方についても考えました。また、クイズでは HIV/AIDS の知識・最新情報についても伝えていきたいと思ひます。みなさんに今回の発表を通して HIV/AIDS についてもっと知り、考えてもらうことができれば幸いです。

クイズ 正しい知識や新しい情報を Q&A 方式で伝えたいと思ひます。本日受付にてお渡しした資料からうちわを出して、各質問に対して○と思う時はうちわのレッドリボンの方を、×と思う時は裏の赤い方をステージに向かって、出してください。

シンポジウム

「自分のため、大切な人のため…今すべきこと」

最近、社会では性体験の低年齢化や10歳～20歳代の性器クラミジア感染症の罹患率上昇が問題となっています。私たち高校生の中にも、性や性感染症に対して知識がないままに性行為をして性感染症に罹患したり、予期しない妊娠で人工妊娠中絶を余儀なくされた人たちがいます。日本は先進国の中で唯一 HIV 感染が拡大している国であり、HIV の感染爆発が懸念されていますが、HIV 感染の状況を年代別に見ると若い年代ほど女性の占める比率が高くなっています。妊娠時に行われる妊婦検査では HIV 抗体検査が同意のもとで行われていますが、今までに累計380人の妊婦に感染が確認され、年間では平均約30人の感染者が継続的に確認されています。現在のところ HIV 陽性者は男性同性愛の人々に多いため、「エイズは自分に関係ないこと」と無関心でいるうちに若い女性に感染が拡大しているという実態を私たちはどのように捉え、考えていったらよいのでしょうか。私たちシンポジウム班は「自分のため、大切な人のため…今すべきこと」をテーマに、医療、地域、教育と様々な分野でエイズ問題に取り組んでいられる方々をシンポジストにお招きし幅広いご意見を伺い、私たち高校生が今そしてこれからすべきことを、会場の皆さんと一緒に考えてみたいと思ひます。





パワーポイントを使った紙芝居で会場への問題提起を行い、次に教室での授業風景を劇に仕立て、クイズを取り入れた聴衆参加型の発表に会場が大いに盛り上がった。次のシンポジウムは様々な立場からの話の後のディスカッションでは会場からの質問、意見等も多数あり活発な意見交換ができた。

〈第13回高校生エイズフォーラム参加者アンケートより高校生の感想の抜粋〉

- ・紙芝居を見て自分の親が HIV に感染していたらどうかを考え、今の自分はその事実は受け入れられないことかも知れないけど、いつか受け入れられる自分になりたいと思った。
- ・自分と同じ高校生が一生懸命に取り組み、とても分かり易く身近に感じることができた。
- ・基礎から発展した話が聞けて知識が広がった。日本は保健の授業でしか性教育をしていないけど、ジャマイカのように国を挙げて HIV 感染対策をしているのを知って、日本もそろそろ始めた方がいいと思った。
- ・軽い気持ちでできたけれど HIV/AIDS っていうのは自分の遠いところでおきている話ではないんだなあと改めて感じた。今日聞いた話を身近なものとしてとらえ、学校の人たちに少しでも広めたい。

〈第13回高校生エイズフォーラム生徒運営委員の感想の抜粋〉

- ・調べることやまとめることがたくさんあって大変で挫折しかけたこともあったが、フォーラムで出会った仲間を支えられ、無事に終わることができ、すごくいい経験ができた。

- ・自分が思っている以上に HIV/AIDS のことが学べただけではなく、協力することの大切さを学んだ。
- ・他の人と考えたこと、調べたことを話し合うことで自分とは違う考えを知ったり、フォーラムに参加する前よりも成長することができたと思う。
- ・自分の意見を人に伝えるのが苦手で最初は話し合いが苦痛だったし、準備もすごく大変で絶対終わらないって思い嫌だったけど、フォーラムが終わった後はやりきった感じですごく良かったなと思った。来年もやりたいと思っている。

3. おわりに

今まで地道に取り組んできたエイズ予防啓発活動がエイズ予防財団のエイズストップ基金活動助成や神奈川新聞の地域貢献賞・安藤為次教育記念賞受賞するなど、多方面からの評価・支援を得るまで成長した。また積極的にフォーラムに参加し活動しようという高校生も年々多くなり、今年40名の高校生が運営委員に応募し、5月20日に第14回高校生エイズフォーラム生徒運営委員会がスタートした。13年間を振り返り“継続は力なり”ということばを実感するが、資金不足・高校生をサポートする側の人手不足等々の課題も山積している中での14年目である。高校生のエネルギーに後押しされ、共に作り上げるプロセス、そして終わった時の充実感には得難いものがあり、また高校生エイズフォーラムの果たす役割は大きいという自負もある。学校関係者はもとより、広く地域社会の理解とさらなる体制的支援を期待したい。